巻 頭 言

常務取締役
水島製鉄所長　柳島章也

バブル景気崩壊，その後の急激な円高不況によって，日本のあらゆる産業の存立基盤が大きく揺らぎ，価格破壊，海外移転による産業の空洞化，輸出入バランスの是正，更には金融システム不安等，まさに日本経済は構造的変革を大きく迫られている。薄板分野の主要なお客様である自動車や，電機などの輸出型産業では，特に厳しく，生き残りをかけたコストダウン活動が強力に進められているが，鉄鋼業においても同様である。リストラクチャリングが全面的に展開され，国際比価に耐え得る競争力を再構築すべく，活動が押し進められている。

使用鋼板の単なる低コスト化のみならず，品質レベルの適正化，品種統合，鋼板加工プロセス全体を通した低コスト化の検討等，メーカー，お客様一体となり，一貫のトータルコスト削減を指向した研究，操業開発，改善活動の動きが，この数年の大きな変化であり課題である。

この様な動きに対して，当社では，従来より製造工程のシンプル化，リードタイム短縮化，品質の高精度でかつ均一化等を狙って，“連続化”，“自動化”，“単純化”を技術開発の根幹として位置付け，「薄板製品のオール連続鋳造化」，「全冷延ミルの連続化」，「バッチレスを狙った連続焼鈍化指向」等を他社に先駆けて積極的に推進してきた。平成7年5月には，その集大成とも言うべき新熱延工場を千葉に建設し，現在順調に稼動中である。この新熱延工場では，世界初の画期的なエンドレス・ホットストリップ圧延技術を開発，実機化に結びつけた。

さらには，お客様での加工プロセスでのコストダウンに寄与する新製品の開発や製品品質の高度化を行っている。自動車の軽量化に寄与し，成形性を大幅に向上させた「新しい熱延･冷延高張力鋼板」，脱脂や速乾性プレス油を省略でき，溶接可能な「良伝導性潤滑鋼板」，高速製缶性に優れた「缶用鋼板」，深絞り性に優れた「一回掛けほうろう用鋼板」等を開発・実用化し，お客様より好評価を得ている。

今後，ますます厳しい経済環境が予想される中，収益性を睨み，かつ国際競争力のある製品をお客様に届けるための研究開発や，操業プロセス技術の開発が待ったなしで要請されている。また一方で，薄板の魅力を引出し，スチールハウス等の建材用薄板分野など新規需要創出努力に力を注いでゆく必要がある。

本特集号は，上述した最近の当社の国際競争力の強化活動の中で開発，実施した技術の一端を紹介したものである。従来以上に，お客様と一体となった活動の展開を図る所存であり，薄板分野の益々の発展のために，多方面からの御批判，御教示をいただければ幸いである。